

2023年西豪州日本人会忘年会における乾杯の挨拶(11月28日)

昨年10月20－21日に岸田総理がパースを訪問して1年余り経過しました。

今年は新型コロナが明けてから、人の交流が顕著に本格化した年であったと思います。3月のパース日本祭りでは過去最大の1万6000人が参加、姉妹都市・学生交流もフルスイングとなり、パース・成田間の直行便も3年7ヶ月ぶりに再開しました。

通常は数年に1回の頻度の西豪州首相の訪日も今年は2回ありました。1月のマッガワレン首相(当時)の訪日と、10月末のロジャー・クック首相の訪日です。

クック首相とサフィオティ副首相が搭乗客になる形で10月29日にはANA直行便が再開し、その後、日本からの来訪者の増加を実感されている方も多いかと思います。

新婚旅行がパースだったと言う井上社長ご本人がパースの魅力を発信され、鈴木駐オーストラリア日本国大使とともに直行便再開式典に参加されました。ANAの大変なご苦勞とご尽力に対し、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

ガス生産への各種規制、環境許認可が大きな課題でしたが、日豪両政府間で協議が続いています。また、クック首相も訪日後に素晴らしい発信をされています。

西豪州の関係者の考え方の奥底には、日本との長年の協力による成功体験をエネルギー転換や脱炭素化においても、実現したいという気持ちがあります。

これは大変ありがたいことですが、決して当たり前とは思わず、常に謙虚な気持ちで時代に合わせた関係発展の努力を続けて行きたいと思います。

パース日本国総領事館としては、西豪州における、日豪両国間の架け橋として活躍されている方々の活動、輝きが最大になるよう引き続きモデレーターの役割を目指して参ります。

来年がさらに素晴らしい年となること、そして皆様ご健康と西豪州日本人会の一層の発展を願いまして乾杯をしたいと思います。

以上